



株式会社 chibito
代表取締役・プロデューサー
阿部裕子さん

子育て世代の「困った」から、育児グッズを開発



起業のきっかけは子育てに伴う生活の変化

起業する前はコピーライターとして広告の制作会社に勤務していました。会社員として深夜まで働き、会社と家を往復する生活でしたが、やりがいを感じて取り組んでいました。そんな中、最初の壁にぶつかったのは出産後でした。希望していた保育園にすべて落ちて待機児童になってしまったんです。

なんとか入ることができたのは、自宅からはかなり遠い保育園でした。雨の中、子どもを自転車に乗せて濡れながら通園している時に、子育ては本当に過酷だと身にしみて感じました。しかも、復帰した会社からは「保育園のお迎えがあるから与えられる仕事は限られるよね」と言われたのです。必死に働いてきたのに希望の保育園には入れず、会社からは「残業ができない社員」と扱われ、これは現代の課題だと強く意識しました。

社内で自らプロジェクトを立ち上げる

今までのように働けないのであれば、社内で自分の仕事を作ろうと考え、従来の育児グッズの課題を解決するような新商品の開発プロジェクトを立ち上げました。それ

が今の「chibito」の始まりです。

「chibito」は現役のママやパパが商品の企画に参加し、ユーザー目線で商品を作っていくというコンセプトの育児ブランドです。最初の商品として、ママにも子どもにも優しい自転車用レイン&ウインドカバー、通園ママの欲しい機能を詰めこんだレインポンチョを作りました。その2つが完売し、プロジェクトは順調！と思っていたところで、会社の業績低迷を理由にプロジェクトが休止されることになったんです。次の商品を楽しみにしてくれているユーザーを放手したくないと思いましたし、ちょうどその頃、子どもが小学校に上がるタイミングで、「児童保育は5時に迎えるに来てください」と言われたこともあり、先々の働き方も考え、起業して「chibito」を自分で運営することに決めました。

工場探しからの再スタート

独立したタイミングで、それまでの工場から、「chibito」の商品は縫製が難しいから、もう受注はできない」と言われ、さらに新しく契約した工場も思ったように動いてくれないなどのトラブルがあり、独立から1年は何もできない日々が続きました。今は良い工場が見つかりましたが、当時は本当に



▲企画会議やイベントで出た「夏場、自転車のチャイルドシートに蚊が襲ってきて困るんです」という意見から、夏場は日よけ・蚊除けとして使える自転車カバーの商品開発が始まったことも。

に大変でした。

ユーザーの声を拾って商品に反映

「chibito」は、ユーザーであるママやパパが企画会議に参加したり、モニターとして関わるのが特徴です。モニターは、ホームページ上で募集し、現在は200名以上の方が登録をしてくれています。参加してくれている方たちには企画すること自体を楽しんでもらいたいと思っています。

マーケティング的な視点で言うと、実際のユーザーに関わってもらうことで商品が洗練されていくのが良いところだと思っています。企画会議に参加される方は、社会に貢献したいという意欲を持っていて、自分の経験からいろいろな意見をくださいます。その意見を反映して、より良い商品を開発しています。

イベントなどでお会いした方から「この商品、ずっと使ってたんですよ。当時すごく助かりました」などの話を聞けたり、街で「chibito」の商品を使っている人を見かけた時には、この仕事を続けていて本当に良かったなと感じます。

最近では、共同開発やメーカーとのコラボの話も進んでいて、今後も商品のラインナップを増やしていきたいと思っています。また、これからは他社商品のブランドディングなどにも関わってまいります。



株式会社 chibito
電話：03-5931-7948
<https://www.chibito.jp/>

